

2021年7月号
〈第403号〉



スマートフォンでも
ご覧いただけます。

学校生協だより

<https://www.hiro-gakkouseikyou.or.jp>
e-mail:hiro-gakuseikyou@mb7.seikyou.ne.jp

広島県学校生活協同組合

732-8507 広島市東区光町 2-8-32

TEL 0120-64-3312

Fax 0120-13-3328

広島県学校生活協同組合第68回通常総代会を開催しました。

6月22日(火)、第68回通常総代会を開催しました。新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、総代の皆様の出席はいただきず、書面議決書の提出により実施しました。提案した議案はすべて承認されました。

概要は2ページに記載しています。

理事長退任 ごあいさつ



6月22日に開催しました第68回通常総代会をもって理事長を退任しました。組合員のご理解・ご協力に心から感謝します。しかし、この2年間(常勤として1年間)、私の力量不足から組織に何ら貢献できなかったこと、また、適材適所の人事の必要性を痛感しています。

新自由主義の暴走は日本社会を大きく変容させ、「格差」「貧困」、そして「分断」という言葉が、日本社会を語る上で日常的なキーワードになってしまいました。教育現場においても、新自由主義教育改革によって教職員集団の「分断」が進み、そのことは職場での学校生協運動を阻害する要因にもなっています。

私は、学校生協の将来展望を考える時、どうしてもこの「分断」の罫を打ち破っていく必要があると思います。学校生協運動の原点である「助け合い」は、教職員が子どもを中心とした教育実践にとりくむ上での原点でもあります。教職員が「選択・競争・評価」「自己責任」という教育に埋没する時、公教育はもはやサービス産業と化してしまいます。

日本生協連の初代会長の賀川豊彦さんは「生協は事業であると同時に、助け合いの組織であり、明日を切り拓く運動である」と述べています。「助け合い」の組織である学校生協運動が、各職場に位置づき、分断された教職員どうしをつなぐ役割を果たせるようになることを願ってやみません。

組合員の皆様の引き続きのご理解・ご協力をお願いして、退任にあたってのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

退任理事長 西迫 利孝

新理事長 ごあいさつ

この度、西迫前理事長の退任にともない理事長に選任されました。改めて責任の重さを感じております。

2007年に専務理事に就任し、以来14年余り学校生協に籍を置いてまいりました。この間、私たち学校生協の職域である小・中学校を始めとした教育現場を取り巻く環境は大きく変化しました。少子化、統廃合により学校数、教職員数ともに大きく減少しています。学校生協が把握している実数では、14年間で△184 職場(79.4%)、県費(2017年度広島市費への移行を含む)現職教職員は△1,416人(90.3%)となっています。また学校に求められる教育課題も多様化、複雑化して教職員の多忙化が進んでいます。忙しさはゆとりをなくし、心と体の健康にも影響を与えます。

そのような中で子どもたちの進路保障に向け日々奮闘されている組合員の皆さん、また継続組合員の皆さんのお役に立てるよう「なくてはならない学校生協」をめざして、学校生協役職員一同とりくんでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

理事長 難波 隆宏

